



4年生部会

平成28年7月21日
No.4 文責：宮崎

いよいよ7月の終盤。部会では、本時で何を学ばせるのか？といった本時の具体を中心に話を進めました。

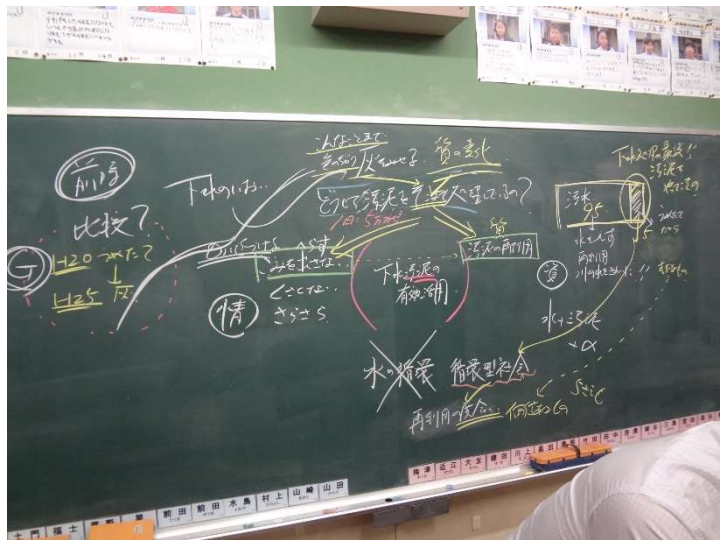
【大事にしたいこと…】

① 『循環型社会』であるという見方や考え方を培っていくということ。

→前单元である上水の学習との関連も見据えた上で循環を捉えていく。大きな主張となりえる！

② 単元を通して何を学ぶのか？
「そのための1時間が本時」であるということ。

→単元の問題解決を改めて、意識し本時で獲得すべきねらいを明確にする。



特に本時では…

○問いを生む場

きれいな水にして、川や海に戻しているのに、下水汚泥も処理している事実から学習問題を醸成していく。など、本時の問いについて、吟味した。

○多様な考えをつなぐ場

子どもの思考と構造化について、板書への位置付け方などを話し合った。構造的には、ごみを出さないようにする→汚泥の再利用になるのではないかと指摘もあった。

○本時の学びを生かした思考を広げる場

当初から良さとして話題にあった“排ガス”さえも透明にしている事実を取り上げることで、そこに住む地域人としての誇り・愛着も同時に感じる事ができ、主張の強みとなりえる。

本時の展開 (○/□)

問いを生む場	<p>下水汚泥の減量・再利用の様子について知る</p> <p>【見方や考え方】 ・汚泥は臭いからごみと同じように燃やしている ・燃やした後はよく分からない</p> <p>【提示する社会的事実】 ・下水汚泥は、1/100にしてから焼却し、最初の1/500の大きさの灰にしている ・焼却灰はコンクリートの原料として使用している</p>
多様な考えをつなぐ場	<p>スラッジセンターの人たちは、どうして汚泥をそこまできれいに処理しているのだろうか？</p> <p>下水汚泥の減量・再利用の様子について調べ、考える</p> <p>活用例を調べる ・焼却灰をエネルギーに ・天然ガスから水素を作る ・焼却灰をセメントの原料に ・畑の肥料になる</p> <p>【ごみを出さない】 ・汚泥のにおいがまったくなくなった ・焼却灰はさらさらで汚くない感じがする</p> <p>【汚泥の再利用】 ・ただで使える処理水が水道水だったら大変 ・札幌市の税金を大切に使うべきだ</p>
本時の学びを生かした思考を広げる場	<p>汚泥を少しも無駄にしないように工夫し、有効活用している</p> <p>排ガスを透明にする取組みから下水処理の在り方を考える わざわざ水蒸気を見えなくさせる必要があるの？</p> <p>排ガスを透明に</p> <p>【見た目も環境】 ・煙が見えないと安心できる ・見えないから迷惑をかけない</p> <p>【地域への配慮】 ・米里に住む人を考えている ・安心して生活できる</p> <p>汚泥を見た目もきれいにすることで、米里に住んでいる人たちが安心して生活することができる</p>

4年生部会の皆様へ

授業者の佐々木先生をはじめ、多くの方が力を出し合い、形になってきています。そして、提案文が今月末で形にするということから、次回も特別に集まることとなりました。各提案者はもちろん、都合の合う方は、できる限り集まり、力を合わせていきましょう。よろしくお願いいたします。

7月30日(土)米里小 9:00~ です。